

令和4年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

本校は、高い志と夢を持ち、「知・徳・体」の調和のとれた、21世紀を担うことのできる有為な人材を育てる。

- 1 豊かな人間性を持ち、国際感覚に富んだ、社会に貢献できる人材を育成する学校
- 2 社会の変化に迅速に対応できる機能的な組織運営に努め、他の学校の模範となる先進的な学校
- 3 生徒、保護者、地域社会からの期待に応え、信頼される学校

2 中期的目標

1 豊かな人間性を持ち、国際感覚に富んだ、社会に貢献できる人材を育成する学校を創る。

(1) 進学を重視した全日制普通科単位制高校として、これまで培ってきた本校の取組みの着実な維持とさらなる発展を図る。

ア 新学習指導要領や高大接続改革への対応、生徒の進路実現を常に意識したカリキュラムマネジメント、「指導と評価」の研究等を行なうことで、生きて働く「知識・技術」の習得、未知の状況に対応できる「思考力・判断力・表現力」の育成、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」の涵養に努める。

※令和6年度において、学校教育自己診断(生徒)における「授業で自分の考えをまとめたり発表する機会がある」を90%にする。(R1:75%、R2:84%、R3:87%)

イ 本校での学習活動のみで、国公立大学や難関私立大学への現役合格に必要な学力を育成する。

※令和6年度において、国公立大学現役合格者20%以上とする。(R1:6.7%、R2:10.3%、R3:15%)

ウ 土曜講習、長期休業中等の講習、週末課題等の内容を精査・改善し、進路実現のための基礎固めを図る。

※令和6年度において、一日平均学習時間(2年生10月)110分以上。(R1:107分、R2:107分、R3:108分)

エ 「槻の木NEXT STAGE」(企業訪問、高大連携、国際交流・海外研修、地域連携など)の取組みや体験・発表型学習によって、思考力・判断力・表現力等を育成し、社会で力強く活躍することができる力や人間性の涵養に努める。

(2) 「規範なくして学力向上なし」を合い言葉に、高い志や倫理観と強い精神力を育て、学業と学校行事・部活動の両立のための支援と指導を行なう。また、安全安心に学校生活がおくれる環境を維持、発展させる。

ア スクールモットーである「当たり前のことを当たり前」の実践をあらゆる場面で生徒に求め、学業と部活動・学校行事・生徒会活動等を両立できる文武両道の逞しい生徒を育てる。

※令和6年度において、遅刻者数府内最少レベルを維持する。

イ すべての教育活動を通じて安全で安心な学校を作り上げ、規範意識、自尊感情、人権意識の向上に努める。

(3) グローバル社会で活躍できる「知・徳・体」の調和のとれた人格の育成をめざし、学校行事、生徒会活動、部活動、「槻の木NEXT STAGE」等の取組みにより、社会で通じる礼儀やマナーを身につけさせるとともに、主体性、自尊感情、人間関係調整力を育てる。

2 新型コロナウイルス感染症に係る対応など、社会の動きに即応できる機能的な組織運営に努め、他の学校の模範となる先進的な学校を創る。

(1) 機能的な組織運営による学校力の向上をめざし、授業改善、生徒指導、進路指導の充実に取り組む。

ア 教員相互の授業見学、授業アンケートを効果的に活用し、授業改善に取り組む。

イ 先進校視察、府教育センター研修などへの積極参加と研修成果の校内伝達などにより、教育力の向上と活性化を図る。

(2) 1人1台端末やオンラインを活用した授業、学習支援を推進するなど、緊急時においても学びが保障される体制の充実を図る。

3 生徒、保護者、地域社会からの期待に応え、信頼される学校を創る。

(1) 生徒や保護者が本校を誇りに思い、地域社会からも信頼される教育活動を推進する。

(2) 広報活動、情報発信の充実を努め、本校への理解と協力、連携が得られる取組みを推進する。

4 校務の効率化と働き方改革を推進する。

(1) ICTによる校務の効率化を進め、教員がより多くの時間、生徒対応できるよう、業務のスクラップ&ビルドを進める。

(2) 働き方改革の趣旨を踏まえ、同僚性が自然に発揮され、教職員全員で効果的・効率的に校務に取り組む体制を構築するとともに、常に社会や学校を取り巻く情勢の変化に迅速に対応できるよう改善に努める。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和4年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>1. 学力及び学びに向かう力のさらなる向上と進路実現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員相互の授業見学、研究授業・研究協議とまとめの共有、授業アンケートや観点別評価についての検討等を実施している。「指導内容について、他の教科の担当者と話し合う機会がある。」(教職員)50.0%(昨年68.0%)「グループ学習を行うなど、学習形態の工夫・改善を行っている。」71.4%(昨年88.5%)「評価の在り方について話し合う機会がある」(教職員)71.4%(昨年88.5%)についての数値は下がったが、「年間の学習指導計画について、各教科で話し合っている。」(教職員)92.9%(昨年度80.8%)「この学校では、到達度の低い生徒に対する学習指導について、全校的課題として取り組んでいる。」(教職員)78.6%(昨年度61.5%)「生徒一人ひとりが興味・関心、適性に応じて進路選択ができるよう、きめ細かい指導を行っている。」(教職員)100%(昨年度73.1%)と上昇傾向にあり、きめ細やかな学習指導が生徒・保護者にも伝わっている。教職員間で課題の共有や検討をさらに進めていく必要があり、そのための時間やゆとりをどう確保するか、校務運営の効率化がいつそう求められている。 ・生徒の授業に関する評価は昨年度から変化はない。 ・「学校は、保護者の願いに応える努力をしている。」(保護者)89.6%(昨年度83.8%) <p>2. 規範意識、自尊感情、人権意識の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校は、生活規律や学習規律などの基本的習慣の確立に力を入れている。」は生徒93.5%(昨年度94.3%)保護者は92.6%(昨年度95.4%)「規律を守った生活を送 	<p>【第1回 令和4年6月19日】</p> <p>「令和4年度学校運営協議会名簿」「大阪府立槻の木高等学校 学校運営協議会実施要項」「令和4年度学校経営計画及び学校評価」について書面審議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力向上のために「主体的な学び」を進めてほしい。 ・働き方改革について、教員の頑張りを見える化していくことが大切であり、それにより、教職員はやりがいを感じる事ができる。 ・総合的な探究の時間の成果について、中学生が見る機会を設けるとよい。 ・槻の木NEXT STAGEについて、高槻の歴史や文化も取り入れるとよい。 <p>【第2回 令和4年10月22日】</p> <p>「令和4年度学校経営計画の進捗状況」「令和4年度授業アンケート(前期)集計結果」</p> <p>「スクール・ミッション(案)」について審議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・槻の木NEXT STAGEについては、現在の強みをもっとはっきり示していくべきである。 ・グローバルコミュニケーションを身近な問題として、外国語の授業だけではなく、他教科の授業と繋げて取り組んでいくことが必要ではないか。 ・働き方改革について、権利を保障するにはそれをフォローする労働力の確保が必要。教育行政とか教育制度の問題について、現場からどう発信していくか

府立槻の木高等学校

<p>っている」は生徒 94.8% (昨年 96.0%)、保護者 93.7% (昨年 95.6%) で、高い評価を維持できている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「学校はいじめなど私達(子ども)が困っていることに真剣に対応してくれる」は生徒 87.6% (昨年 85.8%)、保護者 88.3% (昨年 85.2%)、「先生は、生徒の意見を聞いてくれる。」は生徒 84.2% (昨年 83.0%) で、全ての項目で上昇している。 「今年の体育大会は、良かった。」は生徒 86.1% (昨年度 78.5) 「今年の文化祭は良かった」は生徒 85.6% (昨年 70.7%)。「修学旅行の内容は充実している」は 92.3% (昨年 90.9%) で、体育大会・文化祭は感染症対策を行いコロナ前の実施に戻したため、満足度が上昇した。修学旅行に関しては中学校では未実施や制約が多い中での実施であったことから、満足度がさらに上昇したと思われる。 <p>3. 学校力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校経営ビジョンの明確化、進捗状況の共有、教職員の協働体制の推進、研修の充実等については「教職員の適性・能力に応じた校内人事や校務分掌の分担がなされ、教職員が意欲的に取り組める環境にある。」(教職員)78.6% (昨年度 66.7%) 「日々の教育活動における問題意識や悩みについて、気軽に相談し合えるような職場の人間関係ができています。」(教職員)85.7% (昨年度 73.1%) 「この学校では、府教育センター等が主催する研修に計画的に参加する体制が整っている。」(教職員)71.4% (昨年度 56.0%) コロナ前の教職員どうしの連携が戻りつつあるものの、教職員の協働等については深まっていない。校務運営の効率化による教職員のゆとりと時間の確保、および、校内研修等による意識改革を進めていくことが必要である。 今年度、アンケート用紙配付を廃止し、フォームによる入力とした結果、昨年度よりも回収率が下がった。次年度はフォームによるアンケートの定着をめざしていく。 	<p>が大切である。</p> <ul style="list-style-type: none"> 先生方の学力観をアップデートする必要がある。 「スクール・ミッション」「スクール・ポリシー」「アドミッション・ポリシー」については、生徒や中学生にどうアピールできるかという視点を持つことが大切である。 <p>【第3回 令和5年2月10日】</p> <p>「令和4年度学校経営計画及び学校評価」「令和5年度学校経営計画及び学校評価(案)」について審議</p> <p>授業アンケート・学校教育自己診断について報告</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業アンケートにおいて、芸術系や・保健体育の評価が高くなっている。何か理由があるか分析してほしい。公開授業で見せてもらえる他教科と比較検討しやすい。 小中高の連携を進めていくべき。公立の強みは地域の協力を得やすいところにある。卒業生も含めて地域に協力を依頼する発信が必要。 小中高の教員が授業を見せ合い、上手な授業を行う教員の紹介や教授方法への助言などを行えば相互に大きな刺激を受け、教員の指導力も向上すると思う。 「槻の木 NEXT STAGE」において、地域で行われている文化活動を活用して、礼儀作法や伝統文化に直接触れる機会を作る。地域連携をもっと進めるべきではないか。 単位制の魅力、他の普通科の学校との違いをもっと出していくとよいのではないか。
---	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標【R3年度値】	自己評価
1	<p>学力及び学びに向かう力のさらなる向上と進路実現を支援する</p> <p>2) 高い志の育成と規範意識、自尊感情、人権意識の向上を図る</p> <p>3) グローバル人材の育成を推進する</p>	<p>(1)</p> <p>ア・新学習指導要領を踏まえて、生きて働く「知識・技術」の習得、未知の状況に対応できる「思考力・判断力・表現力」の育成、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養のため、「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざして授業改善を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒1人1台端末など、ICT機器の積極的な活用を推進する。 新学習指導要領に係る適切な教育課程の編成・実施、観点別学習状況の評価を行う。 生徒の学力を、学力生活実態調査等で分析し、生徒面談の充実を図る等して、進路実現を支援する。 キャリアパスポートを活用して職業観、勤労観育成のための取組を行うとともに、校内での進路別説明会を行う等して進路指導の充実を図る。 <p>イ・自学する意義の理解、課題、予習、復習等による学習時間の維持とその定着を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校図書館の更なる活用等を通じて読書習慣や自習習慣の定着を図る。 <p>ウ・「槻の木 NEXT STAGE」の取組を継続し、企業、大学、地域と連携した体験・発表型進路学習を行う。</p> <p>(2)</p> <p>ア・遅刻防止週間を設定する等、遅刻指導を充実し、遅刻数の府内最少レベルをめざす。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の安全確保のため、自転車指導等の交通安全週間を設け、指導の充実を図る。 学校美化や教室清掃を習慣とし、学びの場としての学習環境整備に努める。 生徒1人1台端末の活用推進とあわせて、利用ルールの順守等、情報リテラシーの育成にも力を入れる。 <p>イ・保健課を中心に関係教員が情報を共有し、スクールカウンセラーや関係機関との連携を推進して、一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症に係る対応を継続すると共に、安全で安心な学校づくりを推進する。 人権意識の向上、教育相談活動の充実について教職員研修を実施し、指導力の向上を図る。 <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「槻の木 NEXT STAGE」の一環として国際交流に取組む等、国際的な視野を育て、使える英語力の向上を図る。 学校行事、生徒会活動、部活動、「槻の木 NEXT STAGE」等の取組により、主体性、自尊感情、人間関係調整力を育てる。 	<p>(1)</p> <p>ア・学校教育自己診断(生徒)で「カリキュラムに係る満足度」85%以上を維持する。【90%】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育自己診断(生徒)で「授業満足度」を80%以上を維持する。【82%】 学校教育自己診断(生徒)における「授業で自分の考えをまとめたり発表する機会がある」を85%以上を維持する。【87%】 学習指導室(進路、教務)、学年、教科が協力して、進路実現を支援する。 国公立大学現役合格15%以上。【15%】 面談回数年間総数2160回以上を維持する。【約2400回】 学校教育自己診断(生徒)で「進路について考える機会がある」90%以上を維持する。【95%】 <p>イ・一日平均学習時間2年(10月)、平日・休日平均110分以上。【108分】</p> <p>ウ・参加生徒の満足度90%以上を維持する。【100%】</p> <p>(2)</p> <p>ア・年間遅刻者数650人以下。【1285人】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育自己診断(生徒)で「規律を守った生活を送っている」95%以上を維持する。【96%】 <p>イ・保健課を中心とした適切な教育相談体制による支援の継続。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教職員研修を、人権意識の向上、教育相談活動の充実について各々実施する。 学校教育自己診断(教職員)で「人権尊重に関する様々な課題や指導方法について、全教職員で話し合っている。」70%以上。【68%】 <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症に係る対応を取りながら、国際交流企画等を実施する。 学校教育自己診断(生徒)で「学校行事に係る肯定的回答」85%以上。【83%】 	<p>(1)</p> <p>ア・学校教育自己診断(生徒)で「カリキュラムに係る満足度」は87%(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育自己診断(生徒)で「授業満足度」81%(○) 学校教育自己診断(生徒)で「授業で自分の考えをまとめたり発表する機会がある」83%(△) 日ごろから学習達成状況を密に検討し、指導改善に努めた。また、観点別評価実施に伴い、評価の方法や効果的な考査の作成について検討した。(○) 生徒1人1台端末の活用等により、思考力・判断力・表現力を高める取組を行う授業が増えた。(◎) 喋りサポート(国公立大学希望者への面接指導)を一人当たり年5回実施した。国公立大学現役合格()%() 科目選択、学習状況等の個別面談、キャリアパスポートを活用した進路面談等、年間総数2400回(12月28日現在)(◎) 学校教育自己診断(生徒)で「進路について考える機会がある」96%(○) <p>イ・週末課題(1・2年英国数)、週テスト(2年英語)、毎日の学習計画書の提出、自習室活用推進等を行ったが、家庭学習時間は2年(10月)102分と減少している。(△)家庭学習の必要性を示し、モチベーションアップを図る指導をさらに強化していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> 図書館だよりの発行、掲示を行い、読書習慣の推進を図った。(○) <p>ウ・大阪公立大・神戸大学・立命館大学での講義体験、留学生交流等を実施。韓国姉妹校との相互訪問も実施。満足度100%(◎)</p> <p>(2)</p> <p>ア・遅刻防止キャンペーンや入室許可証の様式更新や指導回数の改善等を行ったが、遅刻者数1178人(12月23日現在)と増加傾向にある。(△)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育自己診断(生徒)で「規律を守った生活を送っている」95%(○) 生徒会が規律順守の呼びかけが始まるなど、生徒の意識向上がみられた。(○) <p>イ・スクールカウンセラー(SC)による教育相談(37件)、支援会議を3回実施し、配慮の必要な生徒の教育的ニーズを教員間で共有した。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> 専門人材講師に救命救急(AED・エビペン)講習、および、SCによる研修(教員・生徒)を実施し、多くの教員や生徒から、実践的な内容であったと好評を得た。(◎) 学校教育自己診断(教職員)で「人権尊重に関する様々な課題や指導方法について、全教職員で話し合っている。」50%(△)であった。職員人権研修(2月9日)を実施するなどして人権意識向上に努める。 <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> 2年ぶりに遠足を実施。2年修学旅行も従来の形で実施。肯定的な回答は92%。(◎) 学校教育自己診断(生徒)で「学校行事に係る肯定的回答」86%(◎)

府立槻の木高等学校

2 他の学校の模範となる先進的な学校を創る。	<p>(1) 機能的な組織運営による学校力の向上を図る</p> <p>(2) 緊急時にも学びが保証される体制を構築する</p>	<p>(1) ア・教科会を定期的開催して教科研修を行い、授業力の向上を図る。 ・教員相互授業見学、教員研修を行う。 ・授業アンケート結果を効果的に活用し、授業改善に取り組む。 イ・先進校視察、府教育センター等の研修への参加と伝達研修、教職員研修、経験年数の少ない教員へのスキルアップ研修等により、授業力、人権意識など、総合的な教育力の向上と組織の活性化を図る。 ・日常的なOJTの推進に努め、経験年数の少ない教職員の育成体制の充実を図る。 ・カウンセリングマインドのある生徒指導を推進する。</p> <p>(2) ・新型コロナウイルス感染症を含め、あらゆる危機管理事案に対し即応できる組織体制を構築する。</p>	<p>(1) ア・教員相互の授業見学、授業アンケート結果を踏まえた教科会での協議を全教科で年間2回実施。</p> <p>イ・伝達研修、教職員研修の実施。 ・学校教育自己診断(教職員)で、「研修内容に係る肯定的回答」85%以上。【77%】</p> <p>・学校教育自己診断(生徒)で、「生徒指導は納得できる」80%以上。【74%】</p> <p>(2) ・従来の保健課を中心とした防犯防災体制確立とあわせて、新たに設置した情報課を中心に、緊急時におけるオンライン授業の速やかな実施や、生徒1人1台端末の活用など、緊急時即応体制を構築する。</p>	<p>(1) ア・各教科で前期後期に1回ずつ、計15人の研究授業を行い、その後報告研修を実施し、全教職員に還元した。(◎)</p> <p>イ・伝達研修、教職員研修の実施。 ・学校教育自己診断(教職員)で、「研修内容に係る肯定的回答」64%(△)よりニーズに合致した研修の実施が必要である。 ・「知っておきたい思春期の心の病について」というテーマでSCによる職員研修を実施。(◎) ・新担任に対するSC研修を実施(○) ・保健だよりの発行(4回+特別号3回)(○) ・学校教育自己診断(生徒)で、「生徒指導は納得できる」69%(△)生徒の状況や事案の背景を踏まえた丁寧な指導が必要である。</p> <p>(2) ・新型コロナウイルスによる出席停止の学習保障のため、1人1台端末を活用し、授業を配信した。(○) ・感染予防の観点から式や集会をオンラインで実施した。(○)</p>
3 生徒・保護者・地域との関係構築と信頼の醸成を図る	<p>(1) 生徒、保護者、地域から信頼される学校づくりを推進する</p> <p>(2) 保護者・地域からの協力や連携の強化を図る</p>	<p>(1) ・授業公開、体育大会、文化祭、個人面談、進路説明会、PTA活動等を通じ、保護者の信頼をさらに得るよう努める。 ・施設設備の改善に努め、学習環境の充実を図る。 ・学校教育自己診断結果等を分析し、保護者や地域社会から期待され信頼される学校づくりがすすんでいるか検証する。</p> <p>(2) ・学校教育活動の全般について、ホームページやメールマガジンなどを通して、本校生徒・保護者、中学校、中学生・保護者、地域に発信し、学校への協力や連携が得られる環境づくりをすすめる。</p>	<p>(1) ・学校教育自己診断「充実した学校生活を支えてくれる雰囲気がある」生徒85%以上を維持する。【85%】、保護者85%以上。【80%】</p> <p>(2) ・ホームページの適宜更新。 ・メールマガジンのタイムリーな発信。</p>	<p>(1) ・学校教育自己診断「充実した学校生活を支えてくれる雰囲気がある」生徒88%(◎)、保護者83%(○) ・体育大会、文化祭は十分な感染症対策のもと従来の形で実施し、保護者や中学生(文化祭事前登録制)が多数来場した。(◎) ・花植え、ボランティア清掃などに、多数のPTAの参加を得た。(○)</p> <p>(2) ・学校説明会8回(午前・午後の2部制)実施した。(○) ・ホームページへの連絡事項掲載27回(4/1~1/10)(○) ・校長ブログの掲載更新は161回(1月20日現在)(◎) ・メールマガジン(金曜日)発信状況48回(1月10日現在)(○) ・保護者宛てメール(週1回)にて配付物等の連絡(○) ・休校時やその他の緊急時の連絡をホームページや保護者宛てメールなどを活用して、迅速に伝達した。(○)</p>
4 校務の効率化と働き方改革を推進する	<p>(1) ICT活用推進による校務の効率化や、業務の見直しを図る。</p> <p>(2) 同僚性を高め、校務が効果的・効率的に推進される体制をつくる。</p>	<p>(1) ・ICT機器の活用を進め、教材の準備の効率化、会議時間の短縮などを行い、教職員が生徒に向き合う時間を確保する。あわせて、業務の見える化、業務分担の見直し・平準化をすすめる。</p> <p>(2) ・コミュニケーションがとりやすい風通しの良い職場環境を作り、同僚性が自然に発揮され、効果的・効率的な協働が進む組織づくりをすすめる。 ・全校一斉退庁日及びノークラブデー等による働き方改革を推進する。</p>	<p>(1) ・学校教育自己診断(教職員)で、「教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に活かしているについての肯定的回答」80%以上。【72%】</p> <p>(2) ・学校教育自己診断(教職員)で、「教職員間の相互理解についての肯定的回答」85%以上。【77%】 ・時間外勤務月80時間以上の職員の半減、100時間以上の職員をなくす。【80時間以上平均7.1人・100時間以上平均2.6人】</p>	<p>(1) ・学校教育自己診断(教職員)で、「教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に活かしているについての肯定的回答」71%(△)会議や研修の時間を確保し、PDCAをさらに進めること必要である。</p> <p>(2) ・学校教育自己診断(教職員)で、「教職員間の相互理解についての肯定的回答」71%(△)日々の教育活動についてゆとりをもって検討できる時間を確保すること必要である。 ・時間外勤務月80時間以上の職員平均9.8人・100時間以上の職員平均4.2人(△)一斉定時退庁日の徹底や学校運営の効率化の推進が喫緊の課題である。</p>